

ビジネス フォーカス

【スポーツエレクトロニクス】

【進化するウェアラブル機器】

エアラブル機器市場は、さらに拡大する余地がある。背景の一つは心拍トレーニングの一般化、もう一つは計測機器から分析・アドバイスツールとしての進化である。

行政による「メタボ」という言葉の定義がランニングブームを巻き起こしたと言われる。ただ、いくら走っても痩せない人が少なくなく、成果が出る前にやめてしまう人もいる。これは心拍の状況を考慮せず、ゆつくりと走つたことが原因であるようと思われる。

心拍トレーニングとは、最大心拍数に対し、どの程度の負荷で運動すれば効果的かを示した

ものである。脂肪燃焼が目的であれば、最大心拍数に対し 70% 程度の運動量であれば効果的な減量が期待できるとされる。心

腕時計型の登場によつてより簡
装着するタイプの方が高いが、
拍の計測精度は、胸にベルトで

易な計測が可能となつた。

いランナーにとつては問題ないだろうが、往々にして「飽きず
に継続する」ことが難しい。ウ
エアラブル機器で収集したデー
タを元に、利用者がどういう状
態にあるのかを分析し、次にす
べきことをアドバイスするとい
つたことが、次のモチベーション
への刺激となる。機器にはこ
うした分析・アドバイスツール
としての進化が期待される。

プロユースのウエアラブル機
器も進化している。スポーツで
は「戦術・技術」「精神力」「フ
ィジカル」が三大要素とされる。
戦術・技術ではデータに基づい
たゲームの組み立てが可能だ
が、精神力、フィジカルは気合
いや根性論の世界で語られるこ
とが多い。ウエアラブル機器は
これらに対してもソリューション
を提供できる。

走行距離 자체는やはり少なかつたが、後半になつてもダッシュの衰えがなかつた上、ダッシュの本数自体も前半とそれほど変化がないことが分かつた。

つまり、その選手は「走らないサッカー」ではなく、「質の高いダッシュを行なうサッカー」というスタイルであつたことが、機器によつて把握できた。この会社ではこうした機器やシステムを活用したソリューションをプロだけでなく、大学や高校などにも提供しようとしている。

スポーツとエレクトロニクスは技術の進化により親和性が高くなつた。特に、日本人は国民性としてスポーツでデータを重視する傾向にある。アイデア次第でヒット商品を生み出すこと

2020年の東京五輪に向けて、まずは日本でのスポーツエレクトロニクスの市場創出に期待したい。

（矢野経済研究所 素材産業グル
ープ 主席研究員 相原 光一）